

梅雨明けの時期と今年の夏について（7月14日11時00分現在）

今年の梅雨は、6月4日に始まり、平年の梅雨明け日の7月14日になっても、まだ梅雨明けしていません。7月4日に梅雨明けとしても良かったと思うのですが、その後台風1号の影響で、太平洋高気圧（サブハイ）の勢力が後退し、大雨が降りやすい傾向になり雨による被害も発生しています。

例年ならば、対馬海峡付近まで梅雨前線が北上した時は、そのまま梅雨明けになることが多いのですが、台風の影響で北から寒気を引く込む形になり、対馬海峡から九州南部に南下し停滞しています。

しかも、ブロッキング現象が発生しているため、同じような天気が持続する傾向になっています。この時期に発生するのも珍しいため、影響が長引いています。

しかし、ようやく天気傾向も変化が見られて来ましたので、今後の天気傾向を気象庁のデータから解説します。

1 梅雨明けの時期

九州南部の平年の梅雨明け日は7月14日ですが、2001年以降では、平均が7月16日になります。今年の場合、サブハイが予想より弱く、しかも関東から東北地方では、寒気の影響（寒冷渦）の影響を受けやすくなっています。

サブハイの勢力は、現在が最も弱くなっていますが、20日頃から勢力を強めて、九州南部を覆ってくると予想されていますので、この前後に梅雨明けの可能性ががあります。さらに、17日以降の梅雨前線の南下と衰弱化での可能性も残っています。

2 今年の夏の傾向

今年の夏は、長期予報で平年より高い気温が予想され、暑い夏が見込まれていましたが、全国的には平年並みかやや低い、九州南部は平年並みに変わっています。

(1) エルニーニョ現象が終息し、この夏からラニーニャ現象が発生する予想でしたが、ラニーニャ現象の発生はまだありません。平年の海水温度になっています。この秋以降に発生する予想のため、暑い夏の傾向が後退し、平年並みかやや低い夏になる見込みです。

(2) 北からの寒気が東日本を中心に南下しやすい傾向が出てきていることです。すでに東北地方には、異常天候早期警戒情報（平年より低い気温）が出されています。6月から7月の高層天気図で、寒気（寒冷渦）の動きを追っているのですが、日本付近には、継続的に寒気が入りやすくなっています。

(3) 7月始めからブロッキング現象が発生しているため、日本付近では、関東から北では、高気圧圏内にあることが多く、晴天傾向になっています。一方西日本では、寒気の影響を受けやすい低圧部になっているため、天気が愚図つくことが多く、しかも長期になっています。この現象が起きると2週間程度持続することが多く、台風が消滅した7日以降の発生ですから、20日頃まで持続する可能性があります。

これからの要素を検討した場合、7月17日頃から晴れ間も出る天気が変わり、20日過ぎ頃から、本格的にサブハイに覆われて天気が安定する可能性があります。

梅雨明けになると、西日本が暑く、東日本が平年並みかやや涼しい夏になってくる可能性があります。

3 農業関係への影響

宮崎県全体で、6月、7月の雨量が多くなっています。たとえば串間市の場合、平年が6月423mm 656mm、7月289mm 393mm 7月は13日現在でも平年を超える雨量となっています。平成27年も雨量が多く、農作物への影響は大きくなっていました。今年は雨量が多い中で、日照時間が比較的多かったことや最低気温が平年より2、3度高い傾向が続いてきたことなど生育環境は、やや良いです。

宮崎市での夏の気温は、最低23～25度、最高31～32度が平均的ですが、今後、暑い夏が予想されていますので、気温が高め、降水量が少なめ、日照時間がやや多めになってくることが予想されています。今後発生する台風の進路に警戒してください。